

水曜通信 27

東北学院大学研究ブランディング事業通信
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

2019年
11月

第27回水曜礼拝（公開大学礼拝） 2019年11月20日（水） 18:30-19:00



説教：田島 卓（本学文学部講師）

奏楽：小野 なおみ（本学礼拝オルガニスト）

<礼拝次第>

前 奏：J.ブラームス「心よりわれは喜ぶ」

讃美歌：39番「日くれて四方はくらく」

聖 書：ヨブ記 3章1節－10節、38章1節－3節

讃美歌：136番「ちしおしたたる」

説 教：「苦難のなかの叱責」

頌 栄：544番「あまつみたみも」

後 奏：J.ブラームス「われ心よりあこがれ求む」

後奏に引き続き、鈴木雅光氏（東北学院中学校・高等学校教諭）作曲のオルガン曲での讃美を行います。
演奏は、小野なおみ氏（本学礼拝オルガニスト）です。

次回第28回水曜礼拝は12月18日です。

第26回 水曜礼拝報告(説教:フリードリッヒ・ヴィルヘルム・グラーフ、奏楽:小野 なおみ)

2019年10月16日(水) 18:30-19:00

讃美歌: 267番「神はわがやぐら」

聖書: マタイによる福音書 16章13節-20節

讃美歌: 290番「よろずを治らす」

説教: "Our Faith in Jesus and His Belief in Us"

「イエスを信じること、イエスが私たちを信じること」

頌栄: 539番「あめつちこぞりて」



【説教要旨】

イエスの問いに「あなたはメシヤ、生ける神の子です」と答えるペテロが、神によって答えるように、私たちがキリスト者であることも、神が受肉したイエス・キリストゆえに人である私たちを認めてくださる神の恵みです。受肉したイエスを神として、神が承認することは、イエスがペテロと弟子たちの信仰を承認することであり、私たちが信仰を告白するときに、神は働き、私たちに恵みが与えられています。聖霊降臨とは、私たちの究極のアイデンティティが、イエスにおいて与えられることで、私たちの信仰を支え、私たちが日々新たに創造されるのは聖霊によるのです。聖霊によって私たちの日常生活と人間関係は根本から変えられます。有限な生の只中で、私たちの互いの信頼と承認の中に聖霊はいらっしゃるのです。(要約: 鐸木道剛)

前奏: J.N.ハンフ「神は高きやぐら」

後奏: O.ディエネル「神は高きやぐら」

前奏、後奏共に、当日歌われた讃美歌「神はわがやぐら」に因んだ作品です。ルターによって作詞作曲されたこの讃美歌は、町にベストが襲来し、ルター自身の健康も奪われかけた苦しい状況の中で書かれました。前奏のJ.N.ハンフは17世紀北ドイツのオルガニスト、後奏のO.ディエネルは19世紀のベルリンでオルガニスト・作曲家として多くの功績を残しました。(小野なおみ)



礼拝とその後の19時00分から30分までのリコーダー(総合人文学科2年 曾根レイ)と通奏低音(総合人文学科4年 門脇社)による賛美に56名の市民が参加されました。

リコーダーと通奏低音による賛美

昨年に引き続き、今年もまた私と曾根レイさんの2人で演奏の機会を設けてもらったことに感謝です。選曲はプロテスタントの性格のものを選び、H. パーセルのホーンパイプ『Hole in the Wall』、ロンドンのルイエ『ソナタ1番 作品3-1』、G. F. ヘンデル『フルートソナタ変ロ長調 HWV377』、G. P. テレマン『リコーダーソナタへ長調TWV41:F2』、最後にJ. S. バッハのフルートソナタBWV1034より『アンダンテ』を演奏しました。

今回は今井先生の御厚意により、ポジティブ・オルガンで通奏低音を弾かせていただきました。丸みのある音で、理性的なイントネーションが特徴で、落ち着いた音のあるサウンドで演奏することができました。礼拝堂の響きも潤いがあり、しっとりとした残響に包まれながら演奏を楽しむことができ、非常に恵まれた環境を用意してくださった方々に大変感謝です。これからも、水曜礼拝が続いていきますように。(門脇社)



— ランカスター神学校での発見 (12) —

「100年前のカラー・スライド」



仙台教会牧師 吉田亀太郎夫妻



愛宕山からの仙台市内(左手前がデフォレスト館)

今回初めて目にした資料の中に、カラーのスライドがあります。

これまでは書庫の中にある文書類を中心に調査していましたが、“新たな資料”は隣の別の部屋に保存されていました。ここには、未整理のものや新たに寄贈されたものに混じって、スライドやフィルム（16ミリ）が文字通り山と積まれていました。

一千枚以上あると思われる中から、“Japan”や“North Japan College”などの表示がある箱を幾つか選び出して観ると、100年以上前のカラーの「ガラス・スライド」が多数見つかりました。分厚いガラス板に印画されたもので、明らかに手で彩色が施された箇所もあるものの、白黒とは全く異なる実感があります。興奮も冷めやらぬまま、早速30枚を厳選して市内の写真屋に連れて行ってもらい、デジタル化を依頼しました。

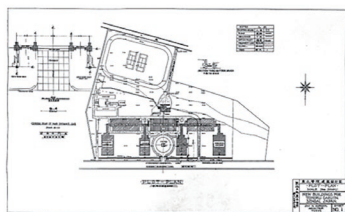
これらのスライドは、外国伝道局本部が幻灯機で上映し、教会関係者に支援を呼びかけたり、雑誌に掲載するなどして用いられたものと推測されます。これからのさらなる調査が楽しみです。

（東北学院史資料センター 日野哲）

— 建築との対話：礼拝堂建築調査の現場から (4) —

東北学院が土樋キャンパスの設計を米国人建築家 J.H.モーガンに依頼したのは大正14（1925）年2月のことで、5ヶ月後の同年7月には、マスタープランと本館正面図が『東北学院時報』に掲載されました。

マスタープランに示されるようなコの字型配置の反復や、実現した本館と礼拝堂の意匠形式は「カレッジ・ゴシック」と呼ばれます。オックスフォード大学などに見られる英国のチューダー・ゴシックを参照源とし、1920年頃の米国大学建築の主流の一つを成した様式です。わが国における本格的なカレッジ・ゴシックの大学施設としては立教大学現本館（マーフィー&ダナ建築事務所、1918）が有名ですが、本学当初のマスタープランと、実現した正面の空間は、同様に米国のキャンパス計画思想の日本への伝播過程を示す、貴重な文化遺産と言えます。なお、モーガンは東北学院での仕事の後の昭和12（1937）年、立教大学にも一棟の作品を残しています。（崎山俊雄）



J.H.モーガン設計事務所が作成した土樋キャンパスのマスタープラン(1925)



開口部の扁平アーチを「チューダー・アーチ」と呼ぶ

—第3回ジョン・ラファージ研究シンポジウム開催に向けて—

ジョン・ラファージ (1835-1910) についての連続シンポジウムの第3回を12月21日に開催します。今回は彼の周辺の人々、特にボストンの人々を取り上げます。その拠点はハーバード大学で、アメリカの超越主義、キリスト教ではユニテリアニズムの牙城です。日本との関係は深く、ボストン美術館における岡倉天心の役割、またモースやビゲローによる最高級の日本美術のコレクションがあります。ラファージはアメリカのジャポニズムのバイオニアで、全く新しいステンドグラスを制作しましたが、同業者のティファニーと違って、日本でもあまり知られていません。ラファージは1886年に哲学者のヘンリー・アダムスとともに日本を訪れ、3ヶ月滞在し、多神教の日本に感銘を受けます。同じく日本の神々に感動したラフカディオ・ハーンより4年早い滞在でした。その後ラファージは1891年にタヒチにも行きます。ここでも有名なゴーギャンにわずかに先行します。この興味深い人物ジョン・ラファージについて、アメリカのキリスト教の日本への影響、愛と信仰の関係についてのランカスター神学校におけるマーサーズバーク神学なども視野に入れて、その生涯と作品の意味を考えます。

(鐸木道剛)



ロックウッド画『ラファージ肖像画』1891年
ボストン美術館蔵 www.mfa.org

シンポジウム「重要文化財『デフォレスト館』の価値について」 開催報告



デフォレスト館前での事前説明会の様子



シンポジウムの様子

東北学院史資料センターとの合同開催シンポジウム「重要文化財『デフォレスト館』の価値について」が、2019年9月28日(土)、押川記念ホールにおいて開催された。

基調講演として、東北大学野村俊一准教授から「デフォレスト館の創建と明治期の履歴」、神戸大学足立裕司名誉教授から「住宅史からみたデフォレスト館について」、日本女子大学是澤紀子准教授から「デフォレスト館の木部塗装にみるオリジナルとオーセンティシティ」のお話を伺い、デフォレスト館の魅力を様々な角度から確認することができた。

その後、本学工学部の崎山俊雄准教授をモデレータとして、上記三名に工学院大学後藤治理事長、宮城県文化財課関口重樹氏を加え、ディスカッションが行われた。重要文化財としての活用や修復方法など、今後の実践的な取り組みを考えさせられた興味深いシンポジウムとなった。

(櫻井一弥)

文部科学省私立大学研究ブランディング事業とは：

学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

東北学院大学研究ブランディング事業通信
第27号

2019年11月7日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

TEL：022-264-6547

E-mail：branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

URL：http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/